

代公民館新聞

発行所 松代公民館
 編集者 松代公民館
 印刷所 松代印刷所
 電話(松代) 26番

一村青年團議會選舉開票

無効投票の多さに遺憾

いろいろの波乱を生んでいろいろの研究をして一ヶ月有余、地方自治法に則り選挙告示もし、その他各種の法規に基いてこの青年團議會事務局は青年團長を始め村青年團選舉管理委員長以下事務従事者は一時は、その推移に円滑なる業務の遂行を期せんものと夜の黄色いチヨウチヨウ蛾に悩まされながら

◎議会議長

柳修 菅刈 二九〇票
 次点 松山増次 犬伏 二五二票

◎村團會議員

山岸丈孔 片桐山 五九票
 市川廉太郎 池の畑 五七票
 宮沢喜平 下山 五三票
 山本賢一郎 犬伏 五一票
 若井徳吉 蓬平 五一票
 柳昌次 孟地 四九票
 若月清海 老 四七票
 中村五三九 清水 四七票
 武田昭四郎 千年 四三票
 小野島文雄 金沢 四三票
 關谷忠 松代 四二票
 小山秀次 桐山 四二票
 鈴木等 松代 四二票
 若井長栄 蓬平 三九票

◎高橋正司

田沢 三七票
 山賀金松 小荒戸 三七票
 柳作藏 千年 三一票
 相沢義則 松代 三一票
 室岡辰男 池尻 二九票
 關谷勝 松代 二〇票
 關谷吉太郎 菅刈 一三票
 關谷武市 八票

次点 五十嵐伊勢松 五票

當選舉管理委員会で當選告示をなすと共に當選者に當選證書を送付し、その他の選舉事務の整理を完了したが、議會議事局として本議会の運営について目下この酷暑と斗い乍ら研究中である。議會議事局長よりの招集通知の發送されるのは八月十五日以降となる見込みである。

馬の傳せん性ひん血検査實施 全村が全馬受けなければならぬ

最近馬の傳染性貧血の浸潤が予想されるので左記日割により実施されることになった。
 この検査は防疫上全馬の検査を必要としますから、検査もれのないよう正當の理由なく検査を受けない場合は家畜傳染病予防法第二六條第四項によつて罰せられます。

和牛品評会を顧みて

本郡の畜産振興と和牛の増殖並に資質の改善を目的とする生産連東頸城郡支部主催の改良和牛品評会は七月二十六日日本村で開催され当日の出場頭数は東部五ヶ村で四十四頭、その中松代村からの出場頭数は十五頭であったが審査の結果は思わしくなく、一、二等は浦田村山平村に占められ、三、四等(三等五頭、四等二頭)に各二頭宛入賞した。誠に残念でしたが今回出場せる和牛は昨年に比較して一般に資質の向上が目立ち入賞牛は勿論選外のものもその差は到つて僅少であるから本村の場合も決して悲観すべきでなく今後の努力如何によつては東部はもとより、郡一位の栄冠を獲得する日も近いことと思われまふ。

◎小学校同窓会

八月十五日 松代小学校同窓会

◎松代光風婦人会

二十日(予定) 料理講習 講師 十日町 西海栄義士

◎例祭

二十七日 諏訪神社寄角力大会

盆踊り近づく

ひぐらしの鳴き方が例年より早いようだと思つていたがもうお盆、地元松代青年團では例年に準じて十五日夜から行われる盆踊りについでいると計画と準備を進めている。
 その一つに假裝大会が実施される個人五等位まで 団体三等位まで 子供賞にも個人、団体と選衡することになっているが大体昨年の通りであるらしい。



試合申込

一日 松代II松之山高校対抗 於松中グラウンド
 " 松中チーム十日町へ遠征
 四日 松代II門出中学校対抗 松代II松之山一般対抗 於松中グラウンド
 七日 松代II室野中学校対抗野球 及バレー大会 於松中グラウンド
 未定 東部五ヶ村中学校野球大会 及びバレー大会

二、四日 本年度中学校卒業生の通職検査(高田職業安定所より係官来村)

天然記念物指定 越後蜀鶏展覧会 十週年記念

文部省指定天然記念物 越後蜀鶏研究会

昭和十四年

新潟縣史蹟名勝天然記念物
調査報告より

筆者 新潟縣天然記念物委員
江村 重雄 氏

一、開催趣旨
私共の祖先が數百年來心血をそそいで作出した全日本、否世界に誇る郷土の天然記念物それは蜀鶏であります。

本種は明治初年頃には最も普通
に飼育されていたらしく当上越
地方では柴鳥又は地鳥とさえ呼
んでいたのであります。

其の後外来鶏の普及につれまし
て本種の飼育も亦漸次遠滅の一
途を辿つて来たのであります。

少數年ら縣下各地に熱心な愛好
者があり、その努力によりまし
て今日まで述綿と傳わり、我が
国三鳴鶏の一つとして廣く内外
に知られて來ていたのでありま
す。

かくて昭和十四年九月には文部
省から本縣の天然記念物として
指定されたのであります。

そして翌昭和十五年には東京で
第一回全日本蜀鶏展覧会が開催さ
れたのであります。本展覧会に
於て当地の小野島昌訓氏の愛鶏
は最優勝の栄冠を獲得し、その
後本種は上野動物園に寄贈せら
れ、國都に於て郷土の香りも高
く數年間鳴き続け、又その間鳴
き声はラジオによつて全国に響
いていたのであります。

次に当地の蜀鶏に關する二、三
の文獻をひろつてみましょう。

昭和十五年

日本蜀鶏研究三月号より

筆者 日本蜀鶏研究社社長
小 穴 彪 氏

(前略)として我國の長鳴鶏は或
いは悉くがシヨウコクと關係あ
るものではなからうかと考ふる
様になつた。そのことが確かな
事實と思ひ込むに至つたのは、
昭和十二年七月一日新潟縣東頭
城郡の山の中でトウマルの長鳴
きを聞いた時からで、その時私
は我國に於ける長鳴鶏の長鳴き
はこういふ山の中で發達したも
のに違ひないこと(中略)我國の
長鳴鶏に關する凡ての不可解な
問題から忽ち解決されることに
思ひ至つたのである。(後略)

郷土の此の様な蜀鶏もカレンツな
戰爭によりまして再び絶滅の危
機にひんしたのであります。幸
い当地の熱心な愛好家によりま
して優秀鶏の血統を傳へること
が出来、そして昨今に至りまし
ては飛躍的に増殖せられ且又資
質も逐次向上されつつあること
は誠に喜ばしい次第であります

全国各地の同好者から当地の優
秀鶏に殺到していることは周知
の事實であります。最近に至
りまして私共の多年宿望であり
ましたこの郷土天然記念物が遙
かに海を越えて海外に輸出され

る様に漸く軌道にのりかけて來
たのであります。

即ち先日、全日本家禽協會長加
藤氏と米國のオハイオ州シンシ
ナ市ナショナルトレイダス日
本代理店との間に輸出に關する
打合せを終り至急輸出すべき
羽數の調査が始められて來てい
るのであります。

昭和十四年

新潟縣史蹟名勝天然記念物
調査報告より

筆者 新潟縣天然記念物委員
江村 重雄 氏

本種は明治初年頃には最も普通
に飼育されていたらしく当上越
地方では柴鳥又は地鳥とさえ呼
んでいたのであります。

其の後外来鶏の普及につれまし
て本種の飼育も亦漸次遠滅の一
途を辿つて来たのであります。

少數年ら縣下各地に熱心な愛好
者があり、その努力によりまし
て今日まで述綿と傳わり、我が
国三鳴鶏の一つとして廣く内外
に知られて來ていたのでありま
す。

かくて昭和十四年九月には文部
省から本縣の天然記念物として
指定されたのであります。

そして翌昭和十五年には東京で
第一回全日本蜀鶏展覧会が開催さ
れたのであります。本展覧会に
於て当地の小野島昌訓氏の愛鶏
は最優勝の栄冠を獲得し、その
後本種は上野動物園に寄贈せら
れ、國都に於て郷土の香りも高
く數年間鳴き続け、又その間鳴
き声はラジオによつて全国に響
いていたのであります。

昭和十五年

日本蜀鶏研究三月号より

筆者 日本蜀鶏研究社社長
小 穴 彪 氏

(前略)として我國の長鳴鶏は或
いは悉くがシヨウコクと關係あ
るものではなからうかと考ふる
様になつた。そのことが確かな
事實と思ひ込むに至つたのは、
昭和十二年七月一日新潟縣東頭
城郡の山の中でトウマルの長鳴
きを聞いた時からで、その時私
は我國に於ける長鳴鶏の長鳴き
はこういふ山の中で發達したも
のに違ひないこと(中略)我國の
長鳴鶏に關する凡ての不可解な
問題から忽ち解決されることに
思ひ至つたのである。(後略)

郷土の此の様な蜀鶏もカレンツな
戰爭によりまして再び絶滅の危
機にひんしたのであります。幸
い当地の熱心な愛好家によりま
して優秀鶏の血統を傳へること
が出来、そして昨今に至りまし
ては飛躍的に増殖せられ且又資
質も逐次向上されつつあること
は誠に喜ばしい次第であります

全国各地の同好者から当地の優
秀鶏に殺到していることは周知
の事實であります。最近に至
りまして私共の多年宿望であり
ましたこの郷土天然記念物が遙
かに海を越えて海外に輸出され

る様に漸く軌道にのりかけて來
たのであります。

即ち先日、全日本家禽協會長加
藤氏と米國のオハイオ州シンシ
ナ市ナショナルトレイダス日
本代理店との間に輸出に關する
打合せを終り至急輸出にすべき
羽數の調査が始められて來てい
るのであります。

村青年團八月行事

十五日

盆踊り假裝大会

二十日以降(未定)

松代村青年團議

料理講習光風婦人会とは別個に)

十五日夜より盆踊り期間中

五、出品鶏 搬入 八月二十六日午前

搬出 八月二十七日午後

六、審査並褒賞 審査の結果優秀なものは左の通り褒賞

する

一等一点、二等二点、三等五点、

他に参加賞

七、陳列用籠 (金網折疊式一ヶ約二五〇円)

本会に於て準備するから必要なものは

申込まれたい、愛用のものを持參使

用するも差支えない

八、入賞鶏は全国展出品並輸出鶏として

推挙する

九、当日登録審査も併せて実施する

十、展覧会役員次の通り

会長 柳 宗一郎

副会長 市川 馬藏

審査長 本山 祖心

審査員 本山 平治

村松 四郎

中島 弘之

柳 喜三

小野島 茂

庶務會計 鈴木 賢一

会場係 矢代 金城

高橋 清八

萬羽 匡公

岡村 公文

出品要領

(1)蜀鶏種一番又は雄一羽を一点

とし一点以上制限なし

(2)出品料 一点に付一〇〇円

(3)申込期限 八月十五日まで

(4)会場に於て雄雌販売買します

農業協同組合役員選挙迫る

お盆と言うと一年おきに農協役員改選の月である。現在役員は一昨年九月一日新任して以来満二ヶ年八月三十一日を以て任期が満了するわけである。農協では今回選挙公告を印刷配布したが特に此の度は先般の總

選挙は八月二十日松代公民館で行われる。

農協設定以来満三年目各地に事業の行づまりから解散又は事業停止状態に陥って居るものが續出して本村農業運動主体となる役員は力量手腕を兼備し眞に農民の代表として農協育成に献身的努力をおしまぬ人を選出しなければならぬ。

本縣知事 村内事情視察のため來村

下の日程によつて村内、教育、土木、衛生、勸業その他全般を視察のため來都する旨通知があった。

月日	発着地	予定時刻	経過地	視察事項
七月十七日	松代村役場着	午前十一時	十日町	資源開發
	同所発	午後三時	より	座談會
	山平小学校着	午後三時半		消防團訓練
	同所発	午後四時半		午後六時八時
	松之山ホテル着	午後五時半		村長(議長)座談會
七月十八日	松之山、奴奈川、大島	二十日	牧	村
七月十九日	旭村、安塚地方事務所	二十一日	直江津	發

資源開發調査のため

縣 牧山技師 來村

來る八月十一、二の両日間に亘り本村内資源開發調査のため縣資源課牧山技師が來村することになった。これについて当局は關係部落へ連絡し、これが調査の万全を期するため目下準備中である。

郡内青年番附相撲

市の川出場奮戦す

応えんが二人とは

去る八月六日、宝台寺において開催された郡内青年番附相撲に松代選出として市の川(荒川屋主人)出場し、酷暑にもかかわらず力戦奮闘、三役の取組までがんばった。その番付は後日発表にならうが三役に列ぶことを予想されている。一着健康に留意し本場所の一段と奮闘せられんと祈念する。

村の人口の動き

(八月一日) 現在

戸籍上人口 (九、一三五名)	男	女
四、四八七名	七月中の	
四、六四八名	出生 男 一七	女 一三
	死亡 男 六	女 一一
	婚姻	
現住人口 (七、四〇五名)	男 三、六三三名	女 八

公民館図書新本入庫

若き女性のために 善の研究 私とマルクシズム 統計の作り方と使い方 日本農村の社会的性格 哭 壁 人間模様 曉の合唱 何処へ 馬車物語 アンナ・カレニナ 人間の歴史 キュリー夫人傳 われ信ず 図書館講話テキスト 日本十進分類法要目表 ベトロ・アルベ著 若き世代に與う マーケットウエン著 乞食 王子 スチブンソン著 室 鳥 ドスバンス著 U. S. A パーネット著 小公子	泥にまみれて 死刑囚最後の日 戦争と平和 若き人間像 バルザックの郷土 裸者と死者 大地 復活 社会主義とは何か 経済学入門 一九四八年 きけわだつみの声 文部大臣鈴木健次郎著 郷土自治建設と公民館 往永直(外一名) 唯物辯法説本 谷川徹三(外) 対立を超えて (雑誌) 図書館協会発行 読書相談 六、七月号 民主主義 上、下 社 会 一九、二〇、二一 高校教科書 萩原 徹 著 講話と日本	振袖御殿 藝道一代男 川口松太郎 明治一代女 女の顔 美しい唇 石坂洋次郎 何処へ 家庭の秘密 丹羽文雄 陶面夫人 どくろの羹 黒潮記 角田喜久雄 半 処 女 小島 牡丹くづるゝ時 政次郎 永井荷風、谷崎潤一郎の 日本文学小説大系 細 雪 教養と文化 ユイゴ著 あゝ無情 人形の家 望みなきに非ず 石川 母系家族 達三 春が咲かせた花 日本目錄規則
--	--	--

科学 家畜ものがたり

小野島 茂

(七) はかり

仔豚の間は簡単に目方を計ること
が出来ることが大きくなると一寸簡単に
計るわけにもいかない。

豚コレラの予防注射をしながら豚
の目方をきいて廻る。

各自の目測によるものであるが同じ
様な大きさのものに随分目方が違う
のに気がつく。

目方がちがうのではなくてこれは
はかり方がちがうからだ。はかり方

と言つても器械では無く各自の目の
計りである。よく経験をつんだ人は
一見ただで生体重を判断すること
もできるがこれは誰にでも出来る
わけではない。

而し簡単に計れないこの目方を余計
知りたくなるものだ。

殊に豚や牛の肥育に当つてはこの生
体重を知るといふことは非常に大切
なことである。

正確な体重を知るにはやはり衡器に
かけてみるのだ。而しこの衡器は
村にも一つしかないし、又これを運
搬することも出来ない。

豚に至つては衡器で計るにも豚を運
搬することがすでにすこぶる厄介で
ある。

そこで誰にも応用出来る簡易測定法
というものが生れて来る。

先づ豚について一、二の方法をあげ
ると次の通りである。

(1) 背幅(R)×背厚(R)×2=背厚(R)
体長は両耳の中央から尾根まで計
る。この方法は成豚の場合にはや
、較少の傾向がある

(2) 背幅×背厚×(背厚×2) = 背厚
胸囲六尺のものは普通体重一
五貫から一二〇貫を基準として

(1) 普通上(八分肥以上)
背幅×背厚×0.57(貫約0.52)
= 背厚

(2) 普通又は中上(六、七分肥)
背幅×背厚×0.55(貫約0.52) = 背厚

(3) 朝鮮牛はこれより三分を差引く
ある

(4) 普通上×背幅×0.8 = 背厚
最も簡単な方法としては、
胸囲六尺のものは普通体重一
五貫から一二〇貫を基準として

胸囲一寸を増減する毎に体重四
貫を増減する

此の様な方法で測定する場合に特
に注意しておかなければならぬこ
とは家畜の姿勢を正しくしておい
て測るといふことと、測る場所を
間違わぬようにするといふことだ
である。



市川 牧人

随想の河原

今年は片日和で六畝という乃公の水
田を半分乾してしまつた。

やつと雨がきたと喜んだら幾日も幾
日も續いて蒔いた種をすっかり腐ら
した。

豆を蒔けば山鳩がお先きに失敬し、
芽を出せば兎が運しと待ち構えてい
る。百姓もまよにはならぬ。

史記という本の中に、
孔子及長爲委吏料量平。

又爲司職吏長養生。

という文句がある。

委吏というのはお倉の番人、司職と

米を量る役人となつては樹目が一合
も五斗も狂わなかつた近頃の何とか
公園の收賄や横領を耳にする毎に今
更の感が深い。

牧場の番人となつては牛や豚が九々
肥えたとある。

乃公は教育者生活四十年、遂に田舎
廻りの馬の脚で終り、百姓になつた
ら兎公や山鳩のなぶりものに逢う。

さてさて孔夫子とはあまりにけたが
てう。

山から歸つて宗予を眞似、ゴロリと
横になつて書架から手あたり次第に
古本を引つぱりおろすと徳富芦花の
『みづのたはごと』が手にさわつ
た。読むともなく頁を繰ると地蔵尊
が出た。

この世は賽の河原である。

大御親の膝下から此世にやられる
一切衆生は皆さの河原の子供で
あるピラミットを積み万里の長城
を築くのがエライでも無い。

村の卯之吉が小妾を誘つたのがマ
ヌでも無い。

一切の仕事は皆努力である。

一切の経営は皆遊びである。

而してわれらが折角骨折つて小石
を積み上げると無慈悲の鬼めが來
て只一棒に打崩す。

ナポレオンが雄図を築くとマ、オー
タローが打崩す。

人間がタイクニツクを造つて誇り
顔に乗り出すと氷山が來て徹崖に
する。

次に牛については

(1) 飛び上(完肥)

背幅×背厚×0.57(貫約0.52)
= 背厚

(2) 普通上(八分肥以上)

背幅×背厚×0.55(貫約0.52) = 背厚

(3) 普通又は中上(六、七分肥)

背幅×背厚×0.55(貫約0.52) = 背厚

(4) 朝鮮牛はこれより三分を差引く
ある

(5) 最も簡単な方法としては、
胸囲六尺のものは普通体重一
五貫から一二〇貫を基準として

胸囲一寸を増減する毎に体重四
貫を増減する

此の様な方法で測定する場合に特
に注意しておかなければならぬこ
とは家畜の姿勢を正しくしておい
て測るといふことと、測る場所を
間違わぬようにするといふことだ
である。

今今集の雑の歌の下に出ている、
凡河内射恒の作に

◎世をすて、山に入る人山にても
なほ憂き時は何地行くらむ
というのがあるが乃公も町生活十
十年、やつと山へ引込んだと思つ
たら兎や山鳩にいちめられる。

この次はどこへ入れればよいのか、
加賀の千代は

◎来てみれば山には山の暑さかな
と歌つたが世の中はそんなものか
知らん。人は心の中に地蔵尊を打
ち立てることが必要だ。

悟りもそれだ。

諦めもそれだ。

自己を深くほりさげる時に何かを
堀りあてることがあろう。

(七、七)